



網渡り見世物侍



網渡り見世物侍

●\*株/レスシート:1974030年\*

## 山根貞男のお楽しみセミナー

「網渡り見世物侍」は一九五五年の大映作品で、市川雷蔵の単独主演作としては五本目に当たる。

市川雷蔵は長谷川一夫の賜をつめた前年のデビュー第一作「銭形平次捕物控・幽霊大名」につづいて、二役を演じる。それも大名の若様と手裏剣技の曲芸師という、身分・境遇はもとより性格もまるで異なる二役なのが興味深い。しかも二人が入れ替わるといふ点がミソで、殿様姿の雷蔵がべらんめえ口調でクサヤをむしやむしやうまそうに食べ、いっぽう、粋な町人姿の雷蔵が侍言葉でクサヤの匂いに辟易するさまを交互に描くくだりは、しゃれ

たユーモアの味にあふれている。そしてむろん、クライマックスの大チャンバラ場面では、二人の雷蔵が同一画面でちゃんと顔を合わせる。

……若様と曲芸師が瓜二ツ！ 恋人が取りちがえる、悪臣が欺される、混乱する御家騒動の中に、熾爽雷蔵一人二役の大あばれ！

勢いのいい茶句である。明らかにここには、当時の市川雷蔵に対する大映の期待の大きさが現われているといえよう。だが、それにしても、陣出達朗の原作小説のタイトル「道化獅子」がなぜ「網渡り見世物侍」になったのだろうかと思う。なにやらキワモノめくで



はないか。いや、そのほうが雷蔵の魅力を盛り立てるといふのか。

市川雷蔵は当時、ファン・グループの雑誌に寄せた文章でこの映画の二役について、曲芸師のほうはユーモラスな性格なので少々喜劇的な演技を必要とし、まったく自分にとって、破天荒な役であると述べている。そして、これで「新しい芸風」を開拓しようとして努力している、と。

熱い意気込み、というより、現実な心意気を惹きさせる発言である。雷蔵らしいというべきか。と、なおさら題名のキワモノ調が気にかかる。

それはさておき、市川雷蔵はその心意気のとおり、「巨匠清口健二」による次作「新・平家物語」で俳優として一大飛躍を遂げることになる。



### ■キャスト

力太郎 市川雷蔵  
母恋の恋 市川雷蔵  
お小夜 水原真知子  
お能 阿井美千子  
信乃 峰 幸三  
幽霊大名 清川虹子  
市助 藤田千子  
江口千太郎 杉山昌三九  
和田外記 香川照介  
折井衣蔵 荒木 忍  
広瀬主膳 大邦一公  
加藤文次 坂本 武  
谷津安衛門 光岡龍三郎  
三吉 上田 寛  
具原美実 東条之助  
加兵衛 岡田豊三  
式部数馬 石原謙磨男  
丹羽有次 高倉 一郎  
丹羽有次 西岡タツオ  
半次 堀北幸夫  
大岡八郎 大岡 八郎

### ■スタッフ

製作 渡井 敏  
企画 高瀬義生  
原作 陣出達朗  
脚本 高瀬義生 太郎  
監督 加戸 敏  
撮影 竹村豊和  
録音 大色正夫  
美術 岡本 豊一  
音楽 高橋 幸  
美術 太田 敏一  
特殊効果 佐野義雄  
編集 高田光一  
協賛 三輪製粉  
装束 三輪製粉  
美術 坂本天吉  
青長 高橋 次  
製作主任 橋本正嗣

◎本作品は保存状態から最高の状態で製作しておりますが、映倫公開時より長い年月を経過しておりますので、一部作品にはお苦しい場面もございます。あらかじめご了承ください。

TND09783

昭和30年度作品

83分・モノクロ